

導入しやすい契約形態

0円 初期費用は無料
 0円 解約費用なし
 31 1ヶ月ごとに契約更新できる

機能限定のお手軽なプラン	一番人気のおすすめプラン	家族の安否も確認できるプラン	グループ会社も利用できるプラン
ライトプラン 月額 6,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input type="checkbox"/> ファイル添付 <input type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input type="checkbox"/> free人事情報連携 <input type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input type="checkbox"/> Google Workspace人事情報連携 <input type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	プレミアプラン 月額 8,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> free人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input type="checkbox"/> Google Workspace人事情報連携 <input type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	ファミリープラン 月額 10,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> free人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> Google Workspace人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	エンタープライズ 月額 14,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> free人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> Google Workspace人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input checked="" type="checkbox"/> API人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 差出人名変更 <input checked="" type="checkbox"/> グループ会社との利用

※51ユーザー以上のご利用や月額料金よりもお得な年間契約の詳細は、ホームページをご覧ください。

<https://www.anpikakunin.com/price>



全国のさまざまな業界の企業が導入

経営者もかんたん、従業員もかんたん、安否確認サービス2がもしもの安否をかんたんにしています。



大雨・台風に限らず、さまざまな事例が多数掲載中

安否確認サービス2 事例



サービスに関するお問い合わせは、安否確認サービス2 Webサイトへ

<https://www.anpikakunin.com/>

※他社登録商標・商標をはじめ、当社のサイトその他カタログ、マニュアル等に記載されている会社名、システム名、製品名は一般に各社の登録商標または商標です。
<https://www.toyokumo.co.jp/copyright>
 ©トヨクモ株式会社 | Toyokumo, Inc.

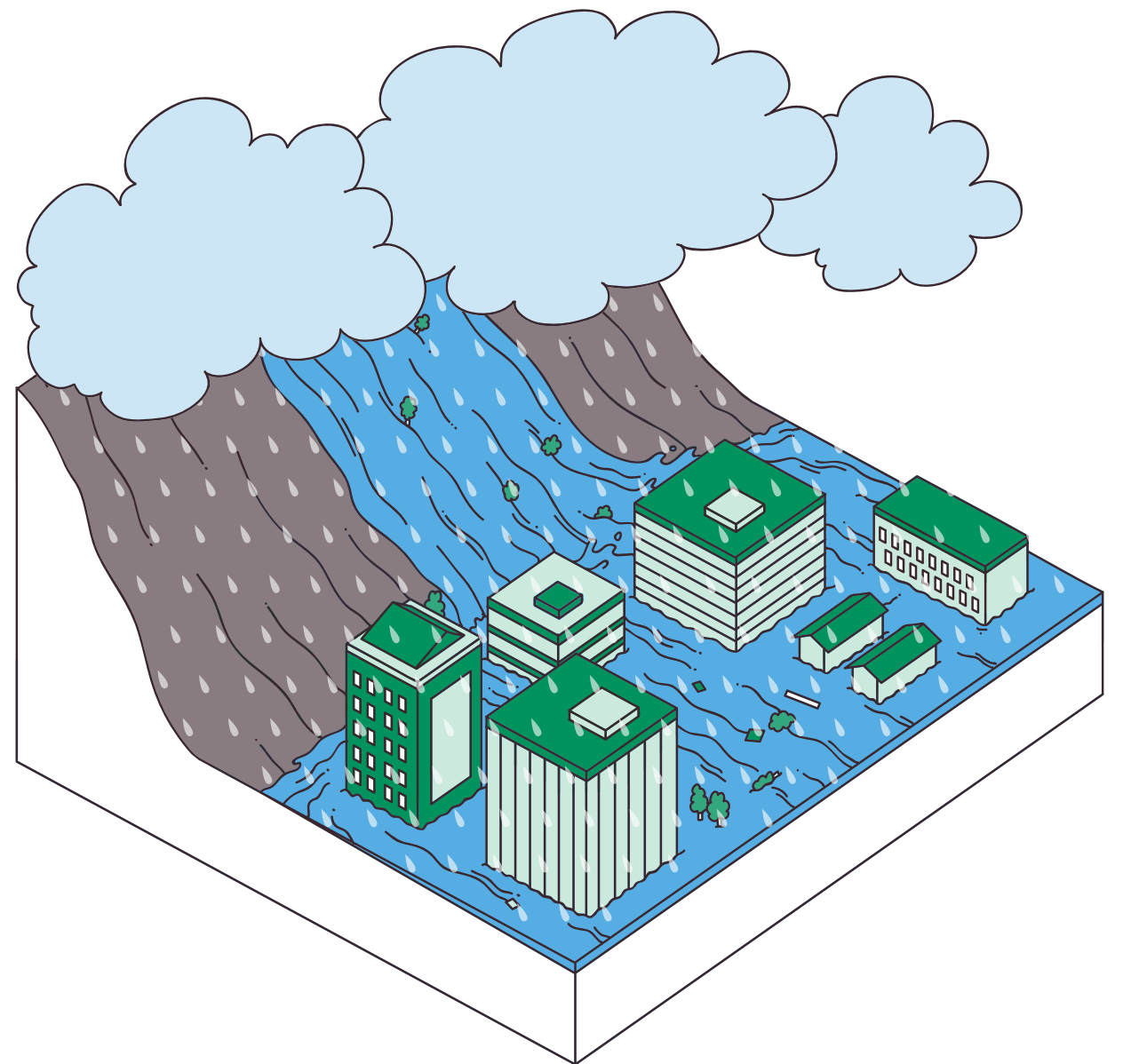
お問い合わせ先

本カタログの記載事項は変更になる場合がございます。

2023年4月版

安否確認サービス2 導入事例

大雨・台風編



目次

03 導入実績

04 大雨などの特別警報、地震や津波に連動！ オンラインで対策会議もできる！

06 ユーザー事例2選

事例1 南島原市役所

東日本大震災で得た課題
安否確認を自動化するために専用システムを導入

事例2 広島医療生活協同組合広島共立病院

BCP対策の強化のために。
企業インフラの停止を想定し、さらなる活用を目指す

10 大災害でも稼働する、稼働するから導入が進む

12 安否確認サービス2は、平時のメンテナンスも簡単

14 無料お試し・導入相談

3,000社以上が導入中

経営者もかんたん、従業員もかんたん、安否確認サービス2がもしもの安否をかんたんにしています。



事業継続において
重要なツールであるため、
平常時も活用することを心がけています。

南島原市役所/さん

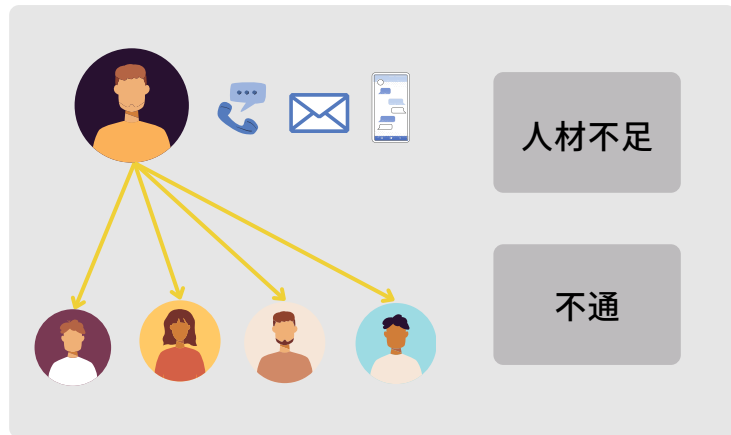


情報周知のための代替ツールとして
安否確認サービス2を運用する仕組みを整
えていきたいです。

広島共立病院/さん

大雨などの特別警報、地震や津波に連動！オンラインで対策会議もできる！

1 人材不足、連絡の不通で安否情報などの収集ができない

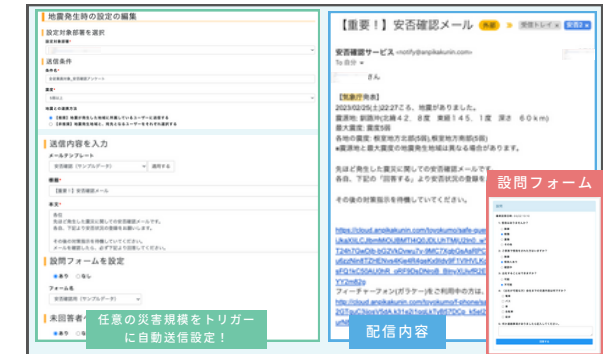


特定の担当者が災害時に電話やメール、SNSで従業員の安否確認や取引先の被災状況を確認すると膨大な時間がかかる。タイミングによっては、通信回線の輻輳で不通になることも少なくない。

安否確認サービス2で解決！ システムが担当者に代わって、安否確認を自動化！

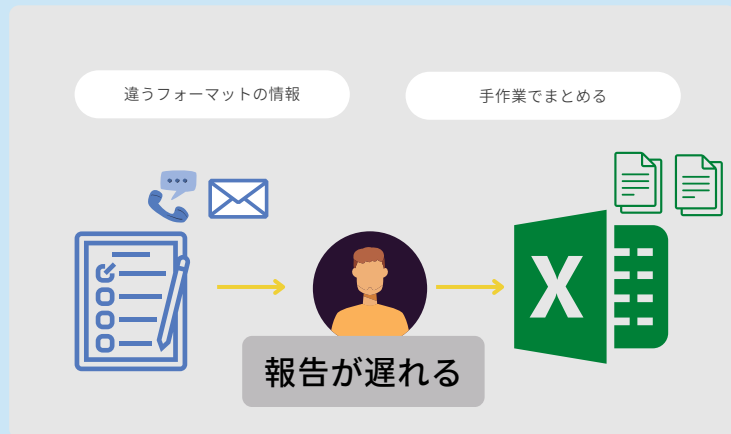


気象庁の地震/津波/特別警報の発令に連動した、メールの自動送信の設定ができます。連絡の手間や漏れ、時間外労働を削減することができます。



送信条件の項目、メールや設問フォームのテンプレートを選ぶだけ。簡単に自動送信の設定を作れます！

2 回答の集計に時間がかかって、報告が遅れる



電話やメール、SNSなどさまざまなフォーマットで情報を受け取り、Excelなどにまとめるのは大変。入力ミスや漏れに注意する必要がある。

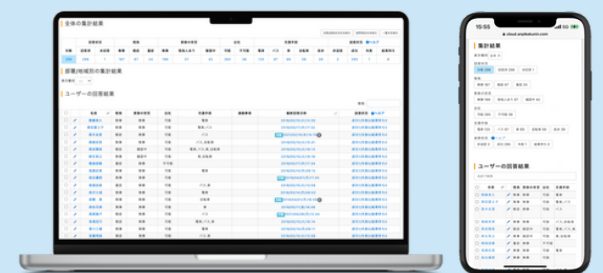
安否確認サービス2で解決！ システムが担当者に代わって、集計を自動化！

設問フォームに回答があると管理者に通知が届きます！



自動送信されてから10分後に管理者に対して、集計結果の案内メールが送信されます。

自動集計の結果をさまざまな端末から確認できます！



出社をしていなくても手元にある端末から集計画面にアクセスすることができます！

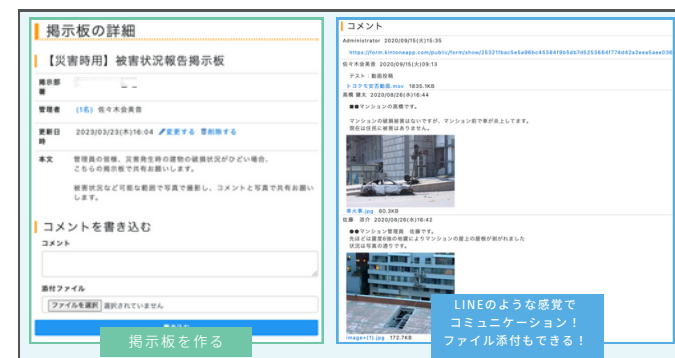
3 出社ができず、コミュニケーションが取れない



通信回線の輻輳で、円滑なコミュニケーションが取れず、事業復旧の対策を議論することができない。また、従業員へ情報伝達が遅れ、一時的に事業が停止してしまうこともある。

安否確認サービス2で解決！ オンラインでどこでも対策会議ができる！

全ユーザーとオンラインでコミュニケーション



特定のメンバーで議論




最大200ユーザーを宛先に指定できるコミュニケーション機能です。防災担当者の議論スペース、各部署の連絡用、1対1のやり取りなどに活用できます。

事例1

500名の安否確認の自動化を実現 職員参集訓練の時間も 1/3へと大幅短縮



 <p>長崎県 南島原市 Minamishimabara City</p>	南島原市役所	
	<p>事業 公務 従業員数 301名～1,000名</p>	<p>お話を伺った方 総務部 防災課 防災交通班 林田さん</p>

課題

☹️ 合併前の町ごとのローカルルールが統一されておらず、電話連絡に頼っていた

電話が繋がらず職員を集めにくく、連絡が取りにくかった

有事の際、電話以外に災害対策本部に連絡する術がなく情報共有ができなかった

効果

😊 安否確認サービス2で災害時の対応を統一することができた

確実な安否確認ができることで、必要な場所に必要の人員を配置できるようになった

安否確認と災害状況の双方についてリアルタイムで情報共有できるようになった

詳細はこちら <https://www.anpikakunin.com/case/minamishimabara>

電話連絡に限界を感じ安否確認システムの導入を検討

一南島原市役所において、林田様はどのような立場で防災対策に携わっているのでしょうか。

林田さん：総務部防災課にて、防災、消防、防犯、交通、自衛隊などを受け持つ班の班長をしており、非常に幅広い業務に携わっています。人口は4万人程度、市役所の職員は500名弱なので、実際に防災業務に関わることができるのも4名ほどですが、その中で班長として全体をコーディネートしているという形ですね。地震や台風などの非常時には災害対策本部を立ち上げ、情報収集や対策方針の決定などについて中心となり活動しています。

一災害対策の中心にいらっしゃるのですが、どのような背景があって安否確認サービス2を導入されるに至ったのでしょうか。

林田さん：1番の理由は台風ですね。毎年最低でも大型台風が3～4つ来るのですが、なぜか週末に当たることが多く、土日を挟んでしまうと人を集めるのが非常に難しくなります。例えば、市内に支所が8カ所あるのですが、

従来は各支所に「避難所を開けるので、人員を集めてください」といった連絡を電話で行っていました。ところが、事前に知らせてはいるのですが、当日支所長と連絡が取れないこともしばしばあり、限られた時間の中で非常に苦労していたというのが実情です。そんな時、何かの拍子に安否確認サービス2の存在を知り、コスト面でも負担が少なそうだったので、総務部内で実証実験をするつもりでトライアルに申し込んだという流れです。

職員の安否確認と避難所の状況把握、双方がリアルタイムで可能に

一現在の運用について、詳しく教えてください。

林田さん：一括管理は私を含む防災班の方で行っていますが、部署によってはLINEと併用しながら連絡ツールとして掲示板機能などを活用していると聞いています。安否確認サービス2を使えば簡単に一括メールを送ることができるので、その機能を頻繁に活用している部署もあるようです。ただ、訓練において1～2割の職員が無反応という点が、今の悩みの種となっています。ほとんどの職員は手早く回答してくれているのですが、どうしても返信がない職員がいるので、そこは訓練を繰り返していくしかないのかな、と感じています。

一実際に災害が発生した際、安否確認サービス2は具体的にどのように役立っていますでしょうか。

林田さん：島原半島には活断層が10以上あると言われており、一部が揺れ

ると連動してあつという間に大規模の地震になる可能性があります。そうなると、迅速に複数の避難所を開設しなければならず、それに伴って避難所1カ所につき最低でも数名の職員が必要です。なおかつ、現地状況を確認するために災害現場に向かう人員を用意しなければならないんですね。そうした状況下で、安否確認サービス2のメールシステムや掲示板機能を使ってリアルタイムの情報を共有していくことができるというのは、非常に強みだと思っています。このシステムがなければ、災害対策本部に迅速に情報が届ける手段がないので、有事の際に状況を把握するにあたって安否確認サービス2は欠かせないツールだと実感しています。もはや職員の安否確認だけでなく、避難所の状況把握、情報確認ツールなどとして幅広く活用していますね。

電話連絡網から安否確認サービス2へ移行したことで職員参集訓練の時間を大幅短縮

一災害時の対応について平時に訓練はされていますか

林田さん：南島原市役所では、トヨタの一斉訓練とは別に、南島原市の取り組みとして「職員参集訓練」という名目で年に2回、平日と休日に1日ずつ実施しています。アプリからの通知ということで、従来は気付くまでに時間がかかっていたケースも多かったのですが、2023年から安否確認サービス2がLINE連携できるようになったので、そちらを活用することで今後は職員の反応もより早くなると期待しています。

一反応率の改善でLINE連携を活用いただけて、弊社としても嬉しく思います。ちなみに職員参集訓練は、もともと電話連絡で行っていたのですか。

林田さん：そうですね、防災班である私たちがキーとなる部長に電話連絡をするところから始めていました。部長へのルートが3つほどあり、それぞれに連絡を入れるとどんどん枝分かれして最終的に一般職員まで通達が届くという形でしたが、500名全員に連絡が行き、最後の回答が来るまで1時間以上かかっていたと記憶しています。それが安否確認サービス2を導入したことで、最終的な確認時間は1/3以下に短縮されました。もちろん管理側で全体の状況把握はできるのですが、所内で各課長などを部門マネージャーとして配置しているため、そこで取りまとめて連絡をもらう流れを構築しています。

ご担当者様から一言

これまでお話ししたように南島原市は災害リスクの高い地域ではあるのですが、幸いここ10年ほどは災害で命を落とした方がおらず、その部分は自分が防災担当として誇りに思っているところではあります。今後も早めの避難行動をとっていただき、皆さんがケガなどを負うことがないようにフォローしていけたらと考えています。


また、その中で安否確認サービス2には、職員の安否確認、避難所の運営に関する情報共有や収集をになってもらおうと思っています。

総務部 防災課 防災交通班 林田さん

事例2

災害時の安否状況把握を完全自動化 憶測だった初動対応を 確実なネクストアクションの判断へ



	広島医療生活協同組合広島共立病院	
	事業 医療・福祉 従業員数 301名～1,000名	お話を伺った方 事務長室 皆川さん

課題



緊急時の安否確認は職責者の連絡網や職場内独自の連絡手段に頼っていた。

職員の被災状況、地域の被災状況把握など情報収集に時間がかかっていた。

一斉送信メールシステムを導入したが実用レベルには達しなかった。

「〇人程度は集まるだろう」と憶測で初動対応を決めていた。

効果



短時間で安否確認と参集が可能になった。

参集できる人数を把握した上で初動対応ができるようになった。

職員の安否確認だけでなく地域の被災状況も把握できるようになった。

[詳細はこちら](#)
<https://www.anpikakunin.com/case/hiroshimairyo>

確実に人員を確保するために安否確認サービス2を導入

一どのような立場で災害対策に関わっておられますか。

皆川さん：私は事務長室に所属し、BCP事務局として災害対策業務を担っています。一方でDMATの業務調整員として広島県の災害対策にも取り組んでおり、院内のマニュアル整備や設備の調整、防災備蓄の見直し、研修の采配など幅広く担当しています。近年DMATもBCPを重視し、初動対応から病院の立て直しを優先的に支援していく方向になりつつありますので、当院のチームメンバーにそういった話をする機会も多いですね。

一病院ならではのBCPの考え方というはあるのでしょうか。

皆川さん：病院としてはやはりマンパワーが何より重要なんですよ、いくら設備が整っていてもスタッフが揃わないと十分な医療が提供できません。災害時は患者さんが増えますが、指示する医師、動ける看護師がいて初めて成立します。さらに動けない患者さんを搬送するとなると一度に3～4人の人員が必要になるので、いかにマンパワーが集まるかというのが1番重要な要素だと考えています。在庫のように、いざという時のためにストックしておくということができないので、この辺りが一般企業と大きく異なる点だと思います。

一いざ災害が発生した際はどのように参集されているのですか。

皆川さん：院内で参集基準が決まっています。大雨特別警報で病院があるエリアに避難指示が出た場合、外来患者さんを安全に帰すために人員が必要となります。また、震度5弱以上の地震が発生した際も、災害拠点病院として患者さんが運ばれてくるため、集まることになっています。その際は、安否確認サービス2の自動発動機能を使って安否確認を行い、その結果により招集をかける仕組みを構築しています。

有事の際、双方向での情報提供が可能に

一安否確認サービス2の導入はスムーズに進められましたか。

皆川さん：人事システムから情報を受け取り、Excel上のデータをCSVで一括登録できたので、導入準備には苦労しませんでした。社内展開に際しては、職員会議や院内のポータルシステムを活用し、各職場責任者が登録作業を推進しやすい状況を作るため、とにかく分かりやすい資料作成とレクチャーに努めましたね。それでも普及しない部署には直接出向いて集団指導を行い、現在はかなり高い普及率となっていると思います。初期設定を行う際スタートアップガイドを利用させていただいたのですが、若干簡素化され過ぎている印象がありました。もう少し図や動画を用いて解説していただくと、さらに初期設定も楽になると思います。ただ、トヨクモさんはサポート体制が充実していて、私も電話で細かい点まで丁寧に教えていただけたので、レスポンスの速さは非常に高く評価しています。

一安否確認サービス2を導入後、効果は感じられていますか。

皆川さん：導入後に大きな災害が起きていないので実用はできていませんが、コロナワクチン接種に関するアンケート調査を行ったり、事務部門においては制服コンペを行ったりとさまざまなシーンで活用させていただいています。システム自体が『安否確認サービス』という名称なので、活用法に疑問を抱くような意見が出たこともありますが、アンケートシステムが非常に有用なので、今後も幅広く活用していきたいと考えています。

憶測行動から確実な情報収集へ 大幅な仕組み改革に成功

一安否確認サービス2を導入し、職員の防災意識も変わってきたと感じておられますか。

皆川さん：少しずつですが、変わってきていると思います。当院では月に一度、月初めに安否確認サービス2を使った独自の定期訓練を行っています。未だに返答率は全体の80%程度ですが、1時間以内に返信する職員が増えてきましたし、有事の際はアプリを通じて病院へ連絡するという意識付けができてきていると感じています。また未回答者に対しては、自動再通知機能を活用して3時間ごとに通知が行くように設定しています。

一担当者として災害時の負担は軽減されそうですか。

皆川さん：職責者は有事の際アプリを確認するという流れを徹底しているので、従来のように個別にメールをしたり、電話をかけたりする手間が一切なくなり、私だけでなく各部署の職責者の負担は大幅に軽減されると思います。以前は、災害などが起きた際も「職員が来る」という前提で話が

進められていたので、実際に人が集まらなかった時の采配がうまくできませんでした。しかし、今では安否確認サービス2で動ける人数を瞬時に把握できるため、その結果からネクストアクションを考えることができています。憶測で動いていたものが、その時の状況に合わせて参集できる人員や人数を算出してからの確実な対応ができる仕組みに大きく変わりました。

一やっぱり災害時、一般企業と違い医療機関の需要は非常に高くなりますよね。

皆川さん：被災下でもどどん患者さんは来院するので、需要と供給のバランスが完全に逆転してしまうんですね。そこを24時間体制でどうカバーするのか、というのが医療機関のBCPとして最も重要な部分になります。集まれる人数により初動対応を決めなければなりません。安否確認サービス2のおかげで憶測ではなく確実な情報を基に判断できるようになりました。

ご担当者様から一言

繰り返しになりますが、医療機関にとって最も重要となるのはヒューマンリソースです。災害の大小にかかわらず被害を受けた際、どれだけの職員が出動できるのか、それによって初動対応が変わってきます。安否確認システムがあれば、いざという時にも確実に、かつ迅速に安否確認ができ、連絡や情報周知ツールとしても幅広く活用できます。

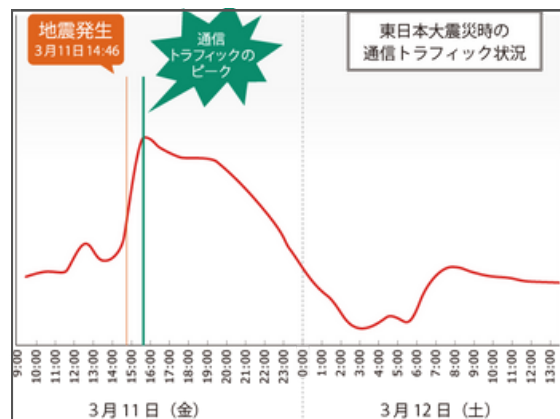
医療機関のBCPは最初の1時間が勝負と言っても過言ではないので、そこに対しての最も有効な手段が安否確認サービス2だと思っています。

事務室長 皆川さん

大災害でも稼働する、稼働するから導入が進む

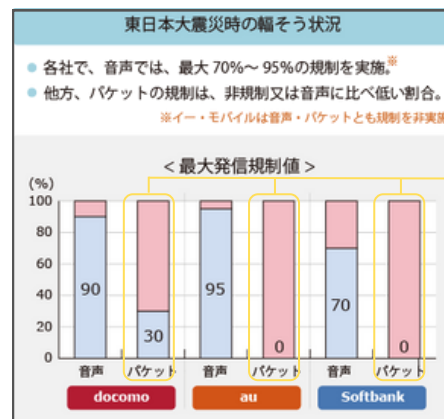
通信回線が輻輳する前に自動でアンケート付きのメールを送信

通信トラフィックのピークは発災後30分～1時間後にピークを迎えます。それまでにメールの配信を完了させることを目標としております。



※安否確認サービス2は、毎分100万通以上のメールを配信できる、SendGrid（セントグリッド）というメール配信システムを利用しています。

大規模災害時でもほとんど規制されることのない**パケット通信**のみで回答できる、ウェブ回答方式を採用しています。



大手通信キャリア
2社で規制されていない。

負荷検証を兼ねた全契約社対象の一斉訓練

毎年9月1日(防災の日)の前後にご契約中の全ユーザーを対象とした、全国規模で一斉訓練を行っています。この一斉訓練では、**実際の災害に近い、またはそれを超える規模でシステムに負荷をかけることで、システムが災害時に本当に稼働できるのかを、お客様ご自身の目で確かめることができます。**更に参加された企業には、回答率の時間推移や訓練全体の平均回答時間をまとめた**訓練レポートが無償で提供されるため、防災意識を高めるきっかけにもお役に立ていただけます。**

一斉訓練の実績

2021年度

・31万1,987名へ一斉送信
13時に約14万ユーザーがシステムへアクセス、障害や遅延なし。

2022年度

・44万1,292名へ一斉送信
11時に約17万ユーザーがシステムへアクセス、障害や遅延なし。

Good安否確認賞2022 最優秀賞受賞企業様の声

四半期に1度、グループ全体で安否確認の一斉訓練を実施しています。回数を重ねるたびに回答スピードや回答率は向上しているのですが、予告なく発生する自然災害に対しても社員が迅速に対応できるのか、また、管理者が結果を随時把握できるのか、という懸念がありました。「安否確認サービス2」の一斉訓練では、**多くの会社様と同様の条件で、さらに開始時刻が予告されないため、当社社員の対応状況の位置付けが分かり、その後の社内防災体制改善に役立つと考えました。**また、自グループ内で実施する訓練と比較し、緊張感を持って臨めるという点も有意義だと感じています。



株式会社ガスパル 取締役 黒澤さん

国内の災害を想定したシステム構成サーバーを国際分散

世界最大のクラウドサーバー事業者である、アマゾン ウェブ サービス (AWS) のデータセンターを利用しています。**AWSは、世界最高水準のセキュリティ誇っており、国内の金融機関や米国政府なども利用しています。**

建屋の耐久性や入退室管理、サーバーの監視などは厳格なルールに則って運用されており、**1年を通じて2,600を超える要件について、外部の監査機関による監査を受けています。**

データセンターはシンガポールをメインとして、日本、アメリカと国際分散しています。



※シンガポールは、直近の100年間で地震が観測されておらず、津波被害の記録もありません。距離的にも日本と比較的近く、電力事情も安定していることから、当社ではあえてシンガポールのデータセンターをメインとしています。

取得している認証
トヨコム/AWS



安否確認サービス2の自動配信実績

誤報判定のため災害発生後10分間の時間を置いてから、自動一斉送信を開始しています。これは、気象庁が誤報を発報した際に誤った自動送信を防ぐための機能となります。

発生日時	災害種別	災害発生地域 (地震は震央)	最大震度 (波高)	配信完了日時	要した時間
2023-02-25 22:27	地震	新潟沖	震度5弱	2023-02-25 22:41	14分
2022-11-09 17:40	地震	茨城南部	震度5強	2022-11-09 17:54	14分
2022-10-21 16:19	地震	福島沖	震度5弱	2022-10-21 16:31	12分
2022-10-02 00:02	地震	大隅半島東方沖	震度5弱	2022-10-02 00:16	14分
2022-09-18 21:05	特別警報(大雨)	宮崎県北部山回り		2022-09-18 21:18	13分
2022-09-18 18:56	特別警報(大雨)	宮崎県北部平野部、宮崎県北部山回り		2022-09-18 18:48	13分
2022-09-18 16:31	特別警報(大雨)	鹿児島県大隅		2022-09-18 16:42	11分
2022-09-18 16:06	特別警報(大雨)	宮崎県南部平野部		2022-09-18 16:18	13分

誤報判定後 4分で配信

安否確認サービス2では自動配信実績を公開しております。平成30年北海道胆振東部地震では地震発生から自動メール配信完了まで、10分（誤報判定時間除く）という結果でした。配信実績を公開していないサービスが多く不透明であるからこそ、導入検討時にご確認いただきたいです。

自動配信実績の確認はこちらから！

2017年6月20日からの配信履歴を確認することができます。

<https://www.anpikak unin.com/historical-performance>



安否確認サービス2は、平時のメンテナンスも簡単

CSVファイルの読み込みで従業員や部署情報などを一括更新

ユーザー情報のCSVファイルからの読み込み

項目は以下の順で読み込みます

1. 親ログイン名	2. 名前	3. 新ログイン名
4. 読み	5. メールアドレス	6. 電話番号

グループのCSVフォーマットを使用する場合は、以下の順で読み込みます

1. 親ログイン名	2. 名前	3. 新ログイン名	4. パスワード
7. 削除フラグ	8. 読み	9. メールアドレス	10. メモ

追加したい場合: 親ログイン名・削除フラグは空白とし、名前・新ログイン名・パスワードを入力してください。その他の項目は任意に入力してください。*は入力できません。

更新したい場合: 親ログイン名を入力し、削除フラグは空白とし、更新したい項目に値を入力してください。更新しない項目は*を入力してください。

削除したい場合: 親ログイン名を入力し、削除フラグを1としてください。

※詳細についてはこちらをご覧ください。

CSVファイルから読み込む【ユーザー情報】-Step 1/2

CSVファイル

ファイルを選択 選択されていません

読み込み対象部署

でもホールディングス株式会社

文字コード

Windows-31Jのファイルとして読み込む(Windows OSなど)

UTF-8のファイルとして読み込む(macOSなど)

グループのCSVフォーマットを利用する

次に、ファイルの中身を確認する

キャンセルする

グループウェアや人事情報システムの情報を同期

人事情報を管理しているシステムと安否確認サービス2を連携させて、メンテナンスの工数を削減することができます。

API認証トークンの発行

API認証トークン: 未発行

API認証トークンを取得する

API認証トークンを発行して人事システムとの連携設定

人事情報システム

- ユーザー情報
- 部署・地域情報
- 所属情報

安否確認サービス2

ユーザー情報や部署・地域情報、所属情報を半自動的に安否確認サービス2に登録、編集、削除することができます！

※APIとは、異なるシステム同士を繋ぐ窓口のようなもの。連携にあたっては、利用中の社内システムがAPIに対応しているかを確認してください。

ボタン1クリックで従業員や部署情報などを簡単メンテナンス

安否確認サービス2は、SmartHR、freee人事労務、cybozu.com、Google Workspaceと連携しています。



● 安否確認サービス2と SmartHR連携で簡単メンテナンス

トヨクモ 安否確認サービス2

SmartHR連携

ボタンを1クリック!

SmartHRにログイン

連携を許可

● 安否確認サービス2と freee人事労務連携で簡単メンテナンス

トヨクモ 安否確認サービス2

freee人事労務連携

ボタンを1クリック!

freee人事労務にログイン

連携を許可

● 安否確認サービス2と cybozu.com連携で簡単メンテナンス

トヨクモ 安否確認サービス2

cybozu.com連携

ボタンを1クリック!

1 ご利用中のcybozu.comのURL (https:// サブドメイン .cybozu.com/)、cybozu.comにログインする際の「ログイン名」と「パスワード」を入力!

2 cybozu.comでBasic認証を利用している場合、「Basic認証を利用している」にチェックをつけ、Basic認証の「ユーザー名」と「パスワード」も入力!

3 新規で読み込むユーザーが安否確認サービス2にログインする際の「初期パスワード」を設定し、ボタンをクリック!

● 安否確認サービス2と Google Workspace連携で簡単メンテナンス

トヨクモ 安否確認サービス2

Google Workspace連携

ボタンを1クリック!

Googleにログインして連携

各種連携サービスを利用するためには、安否確認サービス2ライトプランより上位のプランのご契約が必要です。また、各種連携サービスの利用料金が別途必要です。

安否確認サービス2で安否確認について

詳しく知りたい方へ！

安否確認サービス2で「安否確認」を

試したい！

安否確認サービス2で「安否確認」を

相談したい！

1 安否確認サービス2の無料お試しを申し込もう！

お試し申し込みURL

<https://www.anpikakunin.com/trial>



※無料お試しは、申し込みいただいたプランで全ての機能を検証いただけます。

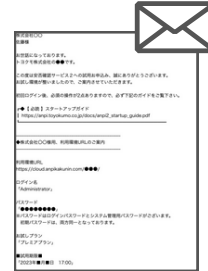
※安否確認サービス2のお試し期間中は、支払いに関する情報は伺いませんので、終了後に自動的に課金されることはありません。

※無料お試し終了後に再度申し込みすることで、何度でもお試しできます。



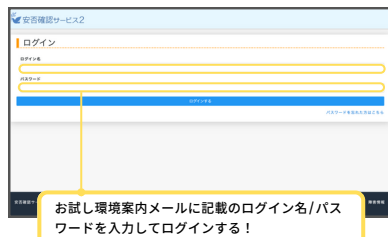
お申し込みフォームに従って入力

お試し申し込み完了後に担当スタッフよりご連絡します。その後、お申し込みの内容に合わせて、メールでお試し環境をご案内します。



2 スタートアップガイドに沿って、機能を体験しよう！

お試しに申し込みした方は、スタートアップガイドに沿って、まずは自分のアカウントを登録！基本機能を使ってみましょう！

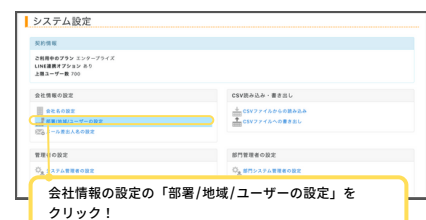


お試し環境案内メールに記載のログイン名/パスワードを入力してログインする！



システム設定をクリック！

※システム設定では、会社情報、ユーザーの権限、セキュリティ、外部システム連携などを設定できます。初期状態では、お試し環境案内メールに記載のパスワード入力してアクセスできます。



会社情報の設定の「部署/地域/ユーザーの設定」をクリック！



Administratorの名前/ログイン名/パスワード/メールアドレスを編集して自分のアカウントを作り、お試しをはじめましょう！

初期設定を30分で完了する

別冊：

初期設定が「30分」で終わる安否確認サービス2スタートアップガイド

トヨクモに相談する

電話相談

専門のスタッフが疑問やご相談をお伺いして、お客様に合わせてサポートいたします。



メール相談

不明点や気になる点など、導入に関する相談をメールで気軽に相談できます。



お問い合わせフォーム、もしくはご相談窓口のメールアドレスにお問い合わせください。

詳しくは

安否確認サービス2 相談



ご相談窓口はこちら！

安否確認サービス2の運用、導入について
お気軽にご相談ください



<https://www.anpikakunin.com/contact>

050-3816-6666

9:00~18:00

toyokumo@toyokumo.co.jp

土日祝を除く